Agilent ChemStation コンピュータのコンフィグレーションとメンテナンス

Agilent ChemStation リビジョン B.03.01

はじめに 2

Agilent ChemStation リビジョン B.03.01 以降を使用するための Windows XP SP 2 のコンフィグレーション手順 3

- Windows XP のインストール 3
- Windows XP の設定 4
- Agilent Bootp サービスを使用するシステムのセキュリティ設定 24
- その他の変更操作 (Administrator のユーザーアカウントで実行) 27

PC のファイルシステムのメンテナンス 28

- NTFS ボリュームのスキャンと修復 28
- NTFS ボリュームのデフラグ 31
- ウイルスのスキャン 32
- 残存している一時ファイルのクリーンアップ 33
- バックアップ 35

Agilent Technologies

はじめに

Agilent 提供の ChemStation PC バンドルシステムは、Windows XP Professional サービスパック 2 がプリインストールされており、ChemStation のパフォーマンスが最適化されるようにコンフィグレーションされています。Agilent 提供でない PC バンドルシステムでパフォーマンスを最適化するには、マニュアルでのコンフィグレーション変更をいくつか行う必要があります。

このマニュアルの最初の章である Agilent ChemStation リビジョン B.03.01 以降を使用するための Windows XP SP 2 のコンフィグレーション手順では、Agilent 提供でない PC バンドルシステムのコンフィグレーションに必要なすべてのパラメータについて説明します。また、インターネットセキュリティなどの重要な設定についても説明します。このマニュアルで説明されている手順に従ってください。

2 番目の章である PC のファイルシステムのメンテナンスでは、コンピュータのパフォーマンスを最適な状態に維持するためのメンテナンス方法について説明します。

Agilent ChemStation リビジョン B.03.01 以降を使用するための Windows XP SP 2 のコンフィグレーション手順

Windows XP のインストール

備考

PC は、適切なセキュリティパッチとホットフィックスをインストールするまでインターネットに接続しないでください。ネットワークに接続する前には、ウイルス定義ファイルと Agilent がサポートする最新のセキュリティフィックスをインストールすることを強くお勧めします。

1. リカバリ CD または Windows XP Professional の CD-ROM から、Windows XP をインストールします。Windows XP のセットアップ時に、コンピュータ名、Administrator パスワード、およびネットワーク設定を指定します。既存のドメインに参加するか、またはワークグループモードでシステムを設定してください。
2. コマンドプロンプトで 「winver」と入力して、Windows のバージョンを確認します。
   必要に応じて、XP のサービスパック 2 をインストールします。現在のファイルをアーカイブしてシステムを再起動するオプションは、無視してください。
3. システムをウイルスから保護ずるため、ウイルス対策プログラムをインストールしてください。ウイルス対策プログラムを実行すると、コンピュータの動作とパフォーマンスに影響を及ぼす可能性があります。Agilent ChemStation は、Symantec の Norton Antivirus との検証テストを行っています。詳細については、32 ページの「ウイルスのスキャン」を参照してください。

Windows XP の設定

ChemStation を Windows XP システム上で正しく動作させるには、このマニュアルに記載の一部の変更手順に従うことが必要です。これにより、アプリケーションのパフォーマンスが最適化されます。また、グラフィックやその他小さな影響を与える変更手順もあります。

備考

個々の設定の重要度を示すため、各項目は以下のとおりに分類されます。

- 必須 : この変更操作は必ず行ってください。
- パフォーマンス : この変更操作は、システムのパフォーマンスを向上させます。
- オプション : この変更操作の大部分は、アプリケーションのグラフィック表示に影響します。

(オプション) **1 レイアウト全般 :** ([スタート] メニューを右クリック ＞ [プロパティ])

a 「[スタート] メニュー」タブの 「クラシック [スタート] メニュー] をクリックします。

b [クラシック [スタート] メニュー] の「 カスタマイズ」ボタンをクリックします (図 1 を参照)。
「[スタート] メニューの詳細オプション」で
以下のオプションをオフにします。

- 「頻繁に利用するメニューを優先的に表示する」

以下のオプションをオンにします。

- 「管理ツールを表示する」
- 「お気に入りを表示する」
- 「ログオフを表示する」(ワークグループシステムの場合で、このオプションは手順 6 以降でのみ使用できます)
- 「[ファイル名を指定して実行] を表示する」
- 「[スタート] メニューに項目をドラッグ / ドロップできるようにする」
- 「コントロールパネルを展開する」
- 「ネットワーク接続を展開する」
- 「プリンタを展開する」
- 「プログラムをスクロールする」
- 「[スタート] メニューに小さいアイコンを表示する」

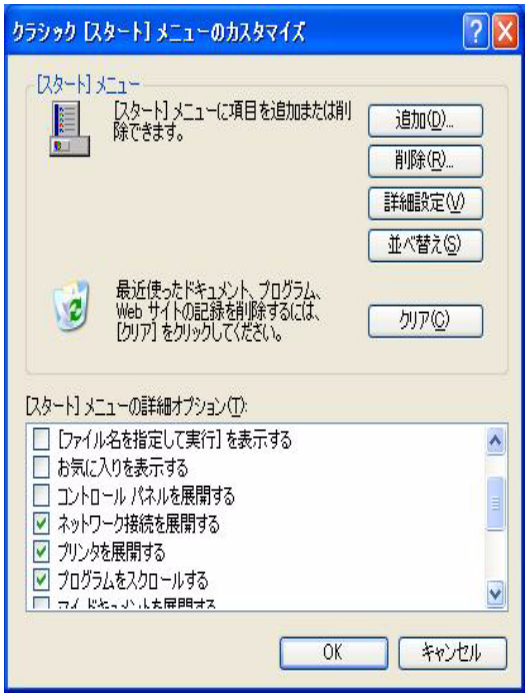

図 1　「[スタート] メニューのカスタマイズ」ダイアログ

(必須)　2　フォルダオプション :
([スタート] を右クリック ＞ [エクスプローラ])

a 「表示」を 「詳細」に設定します。

b 「ツール」＞ 「フォルダオプション」を選択します。

- 「全般」タブの [作業] で、「従来の Windows フォルダを使う」をクリックします。
- 「表示」タブで
  以下のオプションをオフにします。
  - [簡易ファイルの共有を使用する]
  - [登録されている拡張子は表示しない]

  以下のオプションをオンにします。
  - 「タイトルバーにファイルのパス名を表示する」

  以上の設定をすべてのフォルダに適用するために、次をクリックします。
  「すべてのフォルダに適用」ボタン

(必須) 3 Internet Explorer : ([スタート] ＞ [すべてのプログラム] ＞ [Internet Explorer]) (図 2 を参照)
「ツール」＞「 Windows Update」を選択して、重要なセキュリティパッチをすべて適用します。

図 2 重要なセキュリティ更新プログラムの定義

(必須) 4 インターネットセキュリティの設定 : ([スタート] ＞[設定] ＞ [コントロールパネル] ＞ [セキュリティセンター])

a 「セキュリティ設定の管理」の 「自動更新」をクリックします (図 3 を参照)。

- 「自動更新を無効にする」をクリックします。

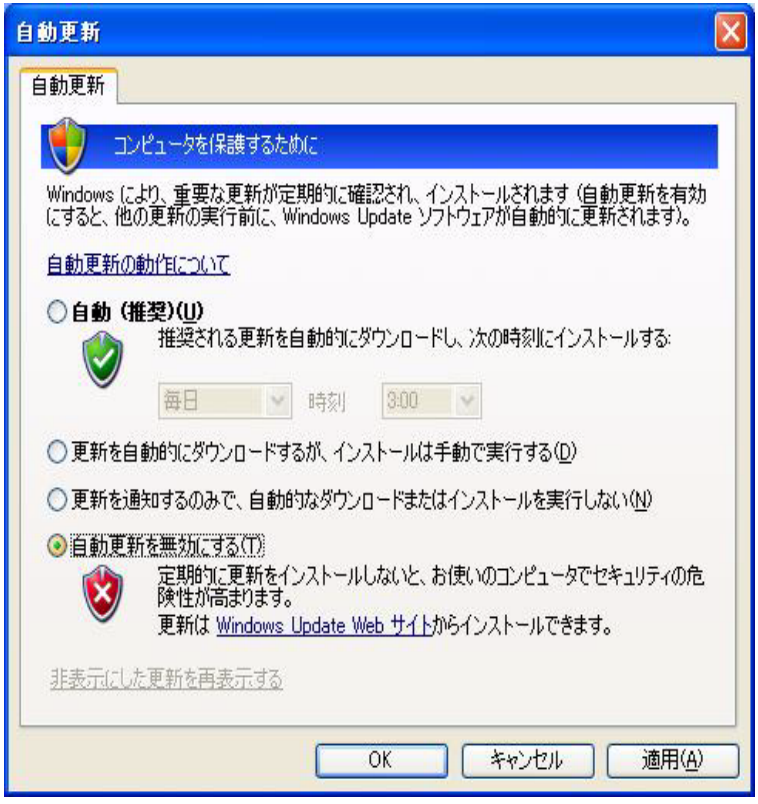

図 3 「自動更新」ダイアログ

b ヘルプのリストから、「セキュリティセンターからの警告の方法を変更する」をクリックします (図 4 を参照)。

- 「自動更新」をオフにします。

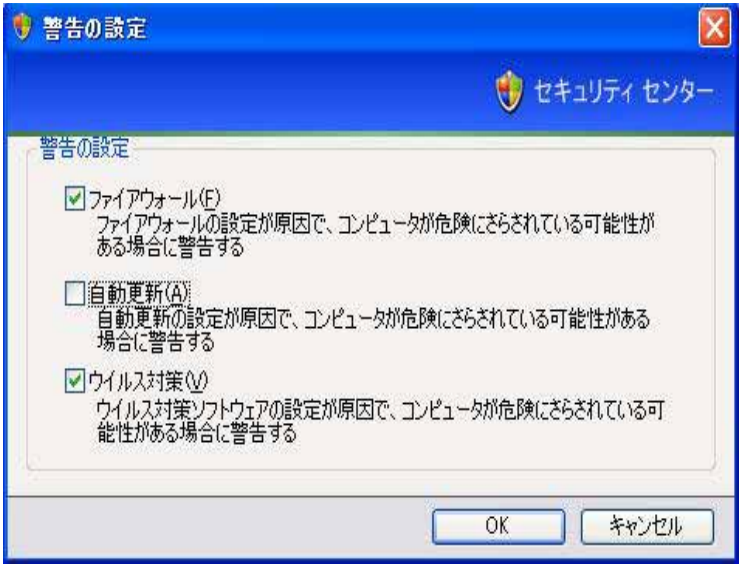

図 4 「警告の設定」ダイアログ

c 「セキュリティ設定の管理」の 「Windows ファイアウォール」をクリックします。
「全般」タブで 「有効 (推奨)」をクリックして、「例外を許可しない」をオンにします (図 5 を参照)。

図 5 「Windows ファイアウォール」ダイアログの 「全般」タブ

備考

Norton AntiVirus のバージョンが Norton Antivirus 2005 より古い場合には、Windows セキュリティセンターからの警告として、Norton AntiVirus はインストールされているがその実行状況を判別することができないことが通知されます。ウイルス対策のセキュリティ警告を無効にして Norton AntiVirus をユーザー自身で監視する方法については、Windows を参照してください。また、Windows セキュリティセンターに互換性を追加するための更新ファイルを取得する方法については、Symantec のサポートにお問い合わせください。

備考

「例外を許可しない」オプションをオンにしている場合には、Windows ファイアウォールによるプログラムのブロック時に通知が表示されないことに注意してください。「例外」タブでこのオプションをオンにしている場合でも通知は表示されません。ChemStation の起動には例外を必要としませんが、ユーザーの作業に必要な他のプログラムでは例外が必要となる可能性があります。例外が必要でその例外がユーザーの属する IT 部署のセキュリティ方針に従っているかどうかについては、その IT 部署にお問い合わせください。

備考

LC/MSD システムや LC/MSD Trap システムを制御している PC では、機器の MSD 部との通信を確保するために必要なセキュリティ設定が緩くなります。また、Agilent Bootp サービスをご使用になる場合でも、適用する設定が緩やかになります。これらの設定については、マニュアルの最後で説明しています。

(必須) 5 Microsoft に Microsoft Windows XP Professional を登録します。

(必須) 6 Windows ログオンオプション (ワークグループシステムのみ)
([スタート] > [設定] > [コントロールパネル] > [ユーザーアカウント])

「ユーザーのログオンやログオフの方法を変更する」をクリックします。

- 「ようこそ画面を使用する」をオフにします。
- 「ユーザーの簡易切り替えを使用する」をオフにします。

（必須） **7 電源オプション：**[スタート] > [設定] > [コントロールパネル] > [電源オプション]) (図 6 を参照)

a 「電源設定」タブをクリックします。

- 「電源設定」ボックスの一覧の 「常にオン」をクリックします。
- 常にオン」となっている 「電源設定」ボックスの下にある すべてのボックスを 「なし」に設定します。

b 「休止状態」タブをクリックして、「休止状態を有効にする」をオフにします。

図 6 「電源オプションのプロパティ」ダイアログの 「電源設定」タブ

(必須) 8 ローカルセキュリティポリシー : ([スタート] > [すべてのプログラム] > [管理ツール] > [ローカルセキュリティポリシー])
[セキュリティの設定] ツリーの [ローカルポリシー] フォルダを開き、[セキュリティオプション] フォルダを開きます。

- 右側のパネルに表示されている次のポリシーをダブルクリックします。
  「ネットワークアクセス : ローカルアカウントの共有とセキュリティモデル」
- 表示されたダイアログで、リストの一覧から次の項目をクリックします。
  「クラシック ー ローカルユーザーがローカルユーザーとして認証する」

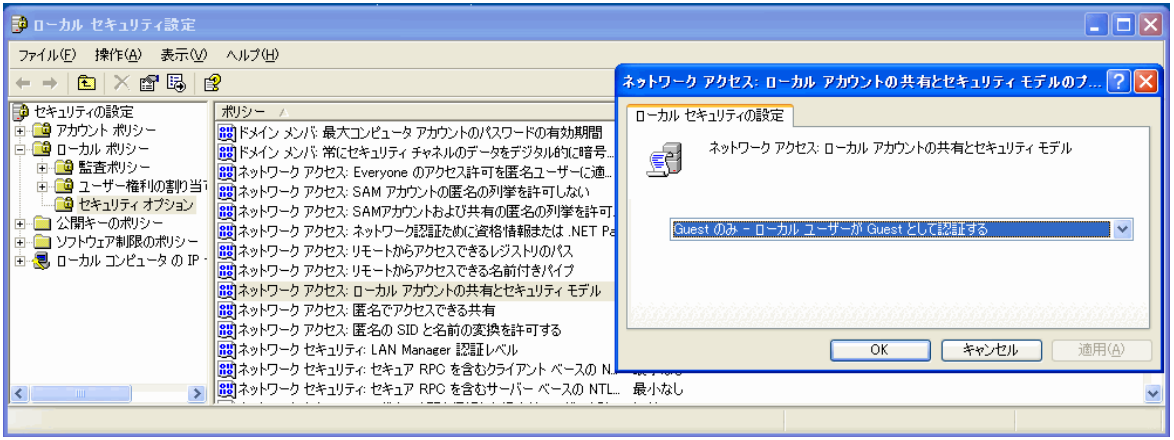

図 7 「ローカルセキュリティ設定」ダイアログ

(必須) **9 Windows Messenger の自動起動の無効化 :** ([スタート] > [すべてのプログラム] > [Windows Messenger] > [ツール] > [オプション]):「設定」タブをクリックします (図 8 を参照)。
「全般」セクションで、「Windows の起動時に Windows Messenger を実行する」をオフにします。
「OK」をクリックして、システムを再起動します。

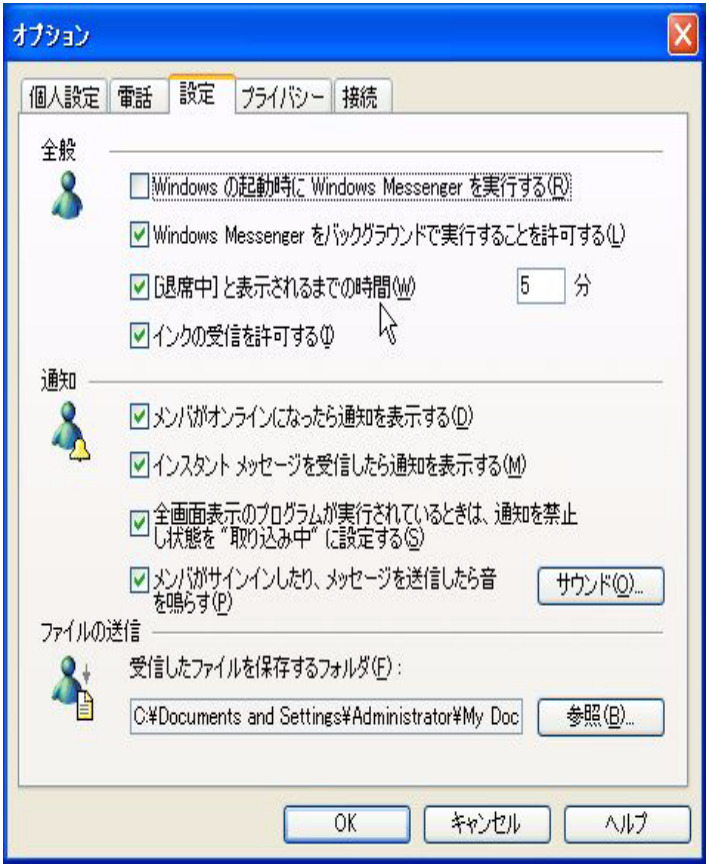

図 8 「オプション」ダイアログの 「設定」タブ

(必須) **10 システムのコンフィグレーション :** ([スタート] > [設定] > [コントロールパネル] > [地域と言語のオプション]) (図 9 を参照)
[地域のオプション] タブで、リストの一覧の 「日本語」に設定してください。

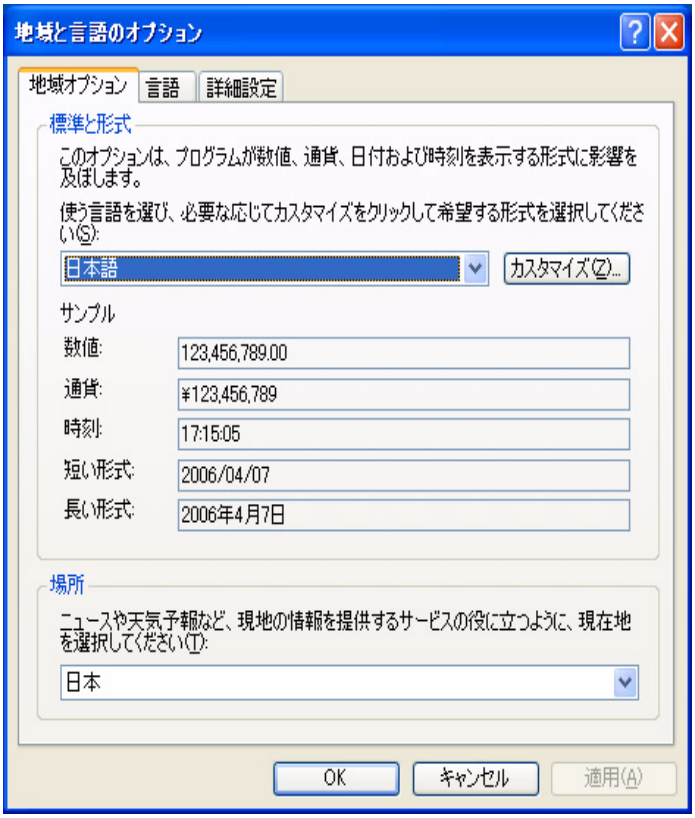

図 9 「地域と言語のオプション」ダイアログの 「地域オプション」タブ

「日本語」以外の地域を選択する場合には必ず、以下の設定を行ってください。これらの設定を定義するには、「カスタマイズ」ボタンをクリックします (図 10 を参照)。

- [小数点の記号]: [.] (ピリオド)
- [桁区切り記号]: [,] (コンマ)
- [区切り記号]: [,] (コンマ)

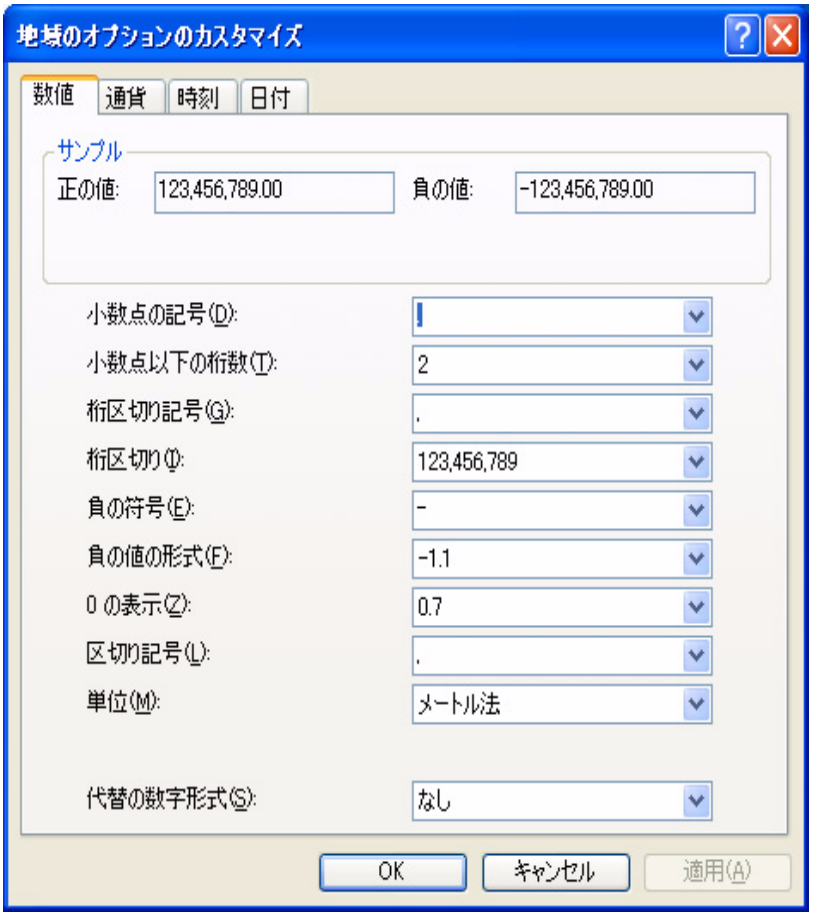

図 10 「地域のオプションのカスタマイズ」ダイアログの 「数値」タブ

(パフォーマンス) **11 ハードディスクのプロパティ :** ([スタート] >[エクスプローラ] の [ローカルディスク (C:)] を右クリック > [プロパティ])
「全般」タブで、「このディスクにインデックスを付け、ファイル検索を速くする」をオフにします。
変更を適用するには、「OK」をクリックします。選択ダイアログで、「C:¥、およびサブフォルダとファイルに変更を適用する」オプションをオンにします。
この設定は、リムーバブルディスク以外のすべてのドライブでオフにしてください (図 11 を参照)。

備考

Microsoft では、$NTUninstallKB... フォルダなど Windows のホットフィックスやパッチに関連するフォルダには、特別なアクセス権限が適用されます。これらのフォルダのアクセス権限により、インデックスサービスの新しい設定を適用した際にはエラーメッセージが表示されます。こうしたメッセージが表示されたら 「無視」をクリックしてください。

図 11　「ローカルディスク (C:) のプロパティ」ダイアログの 「全般」タブ

(パフォーマンス) **12 画面レイアウト :** (デスクトップを右クリック ＞ [プロパティ])
「画面のプロパティ」ダイアログで、以下の項目を変更してください (図 12 を参照)。

a 「テーマ」タブで、「Windows XP」を「Windows クラシック」に変更します。

b 「デスクトップ」タブの 「デスクトップのカスタマイズ」ボタンをクリックします。

- 「全般」タブで、4 つのデスクトップアイコン ([マイドキュメント]、[マイコンピュータ]、[マイネットワーク]、[Internet Explorer]) をすべてオンにします。
- 「全般」 タブの「60 日ごとにデスクトップクリーンアップウィザードを実行する」をオフにします。

c 「スクリーンセーバー」タブで、「Windows XP」を 「(なし)」に変更します。

d 「デザイン」タブで 「効果」ボタンをクリックして、次の項目を除いたすべての項目をオフにします。

- [..... キーボードナビゲーションの下線を表示しない]

e 「設定」タブで、解像度を 1280 x 1024 に、色を 32 ビットに、リフレッシュレートを 75 Hz 以上に設定します。液晶モニターの場合は 60 Hz に設定します (注 : 一部の旧型モニターは 60 Hz のみでの動作です)。

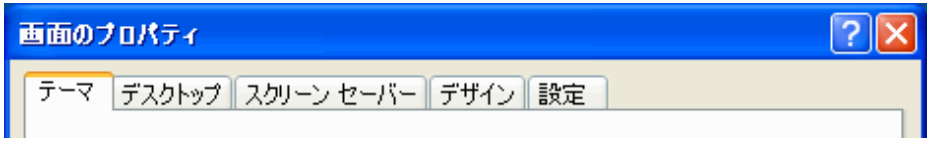

図 12 「画面のプロパティ」ダイアログのタブ

(パフォーマンス) **13 システムのプロパティ :** ([スタート] > [設定] > [コントロールパネル] > [システム])

a 「詳細設定」タブの [パフォーマンス] にある「設定」ボタンをクリックします (図 13 を参照)。

- 「視覚効果」タブで、「パフォーマンスを優先する」に設定します。
- 「詳細設定」タブの [仮想メモリ] で 「変更」ボタンをクリックして、ページングファイルサイズを PC の物理 RAM の 2 ～ 3 倍の値に調整すると最適なパフォーマンスが得られます。
- 「データ実行防止」タブで、「重要な Windows プログラムおよびサービスについてのみ有効にする」をクリックします。

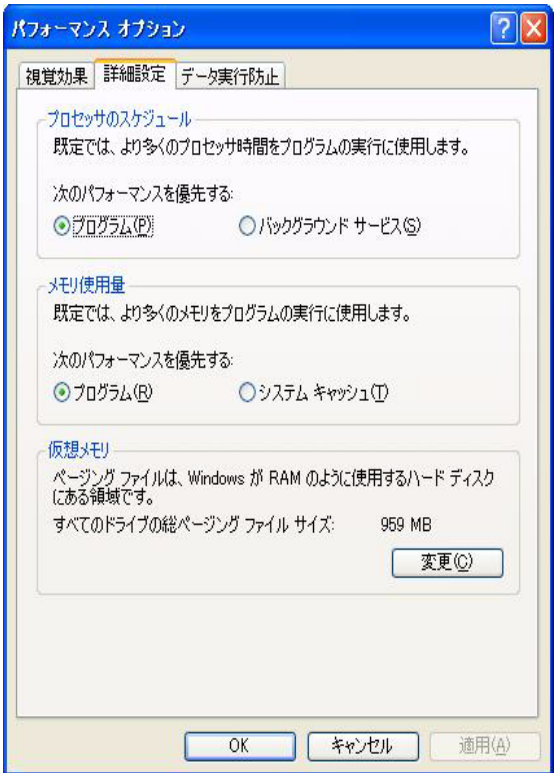

図 13 「パフォーマンスオプション」ダイアログの 「詳細設定」タブ

b 「詳細設定」タブの [起動と回復] にある 「設定」ボタンをクリックします (図 14 を参照)。

- 「起動システム」セクションで、両方の「... を表示する時間」フィールドを「30」秒間から「3」秒間に変更します。
- 「システムエラー」セクションで、「デバッグ情報の書き込み」を「(なし)」に設定します。

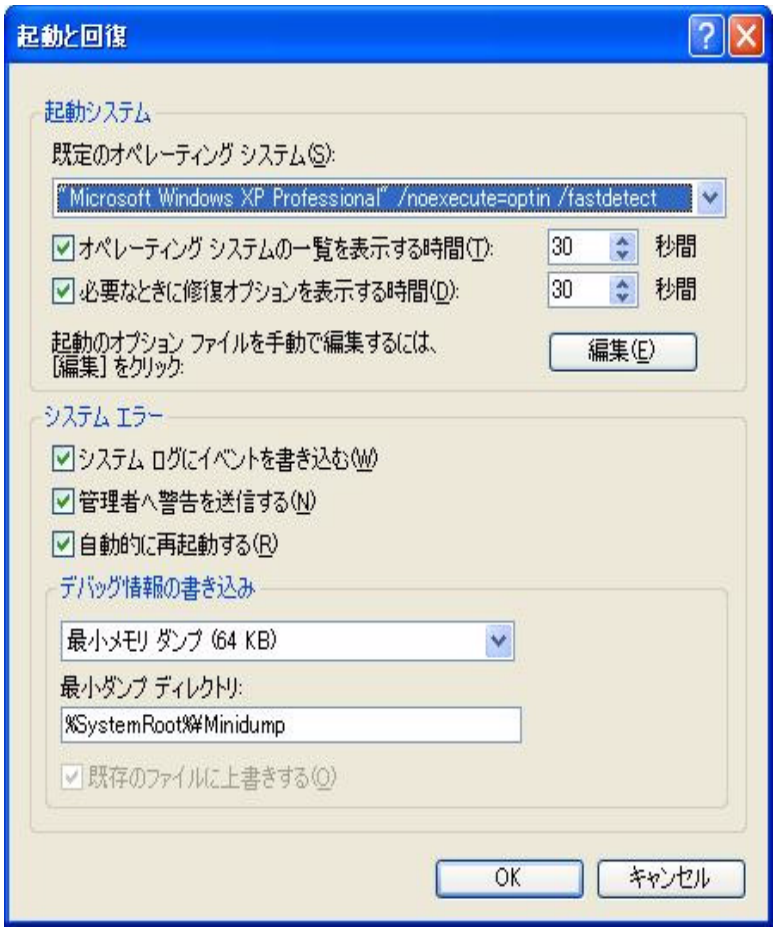

図 14 「起動と回復」ダイアログ

c 「詳細設定」タブの 「エラー報告」ボタンをクリックして、「エラー報告を無効にする」をクリックして 「重大なエラーが発生した場合は通知する」をオンにします。

d 「リモート」タブで、「このコンピュータからリモートアシスタンスの招待を送信することを許可する」と 「このコンピュータにユーザーがリモートで接続することを許可する」をオフにします。

e 「システムの復元」タブで、「すべてのドライブでシステムの復元を無効にする」をオンにします。
この設定を有効にしたら、システムを再起動します。

(オプション) **14 ごみ箱のプロパティ :** (デスクトップの [ごみ箱] アイコンを右クリック) 以下のオプションをオンにします (図 15 を参照)。

a 「全ドライブで同じ設定を使う」

b 「ごみ箱にファイルを移動しないで、削除と同時にファイルを消す」

c 「削除の確認メッセージを表示」

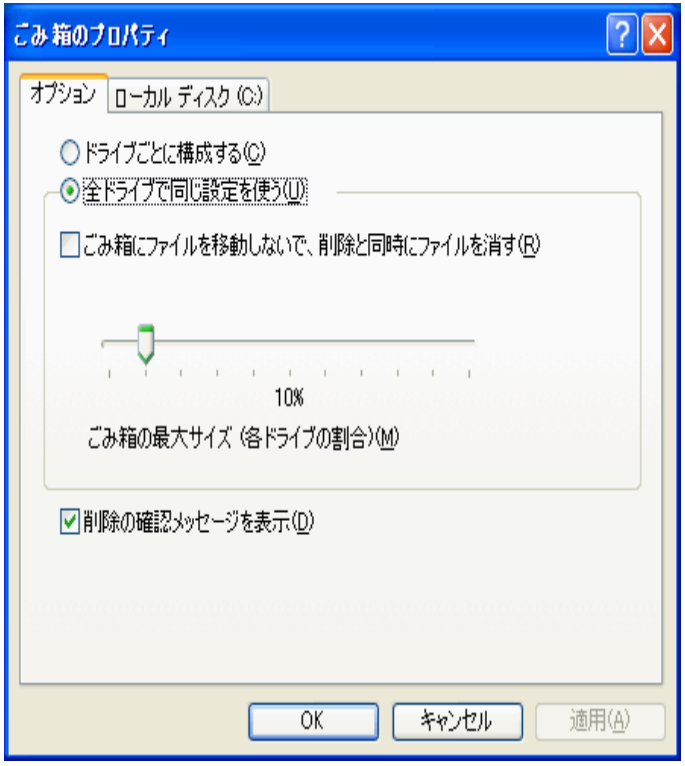

図 15 「ごみ箱のプロパティ」ダイアログの 「オプション」タブ

(オプション) **15 画面レイアウト :** (デスクトップを右クリック ＞ [アイコンの整列]) 「等間隔に整列」をオフにします。

Agilent Bootp サービスを使用するシステムのセキュリティ設定

LAN 上での Agilent 機器の IP アドレス管理に Agilent Bootp サービスをご使用になる場合には、前記コンフィグレーション手順 4 とは別のセキュリティ設定を行うことが必要です。以下は、こうしたセキュリティ設定について説明します。

備考

ここでのセキュリティ設定は、Agilent Bootp サービスを使用する PC のみに適用してください。

インターネットセキュリティの設定 : ([スタート] > [設定] > [コントロールパネル] > [セキュリティセンター])

a 「セキュリティ設定の管理」の 「Windows ファイアウォール」をクリックします。

- 「全般」タブ (図 16 を参照) で
  「有効 (推奨)」オプションをクリックします。
  「例外を許可しない」オプションをオフにします。

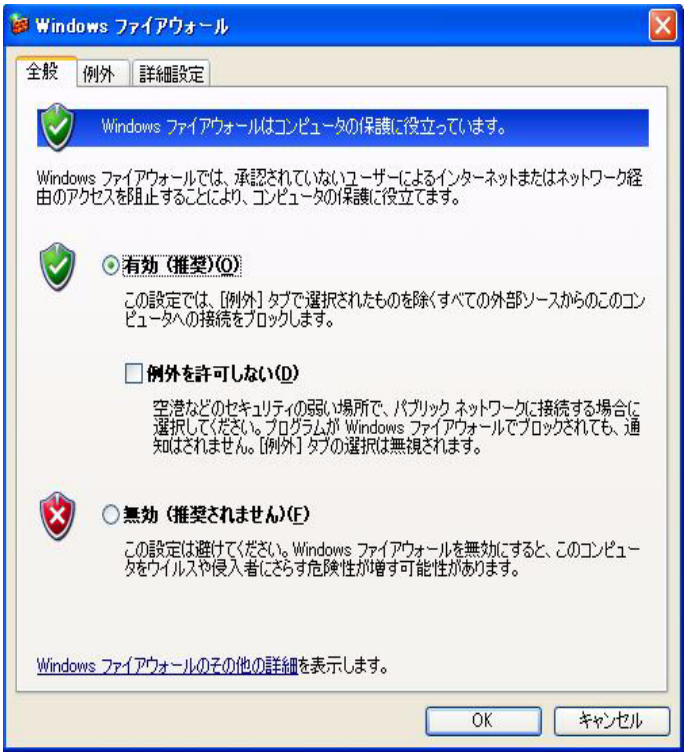

図 16 「Windows ファイアウォール」ダイアログの 「全般」タブ

- 「例外」タブ (図 17 を参照) で
「Windows ファイアウォールによるプログラムのブロック時に通知を表示する」オプションをオンにします。
「プログラムおよびサービス」リストに 「bootpwin.exe」を追加して、このプログラムの例外を有効にします。「bootpwin.exe」は、c:\Program Files\Common Files\Agilent Shared\BootP\bin フォルダにあります。
デフォルトで表示されているその他のプログラムは、すべてオフにします。

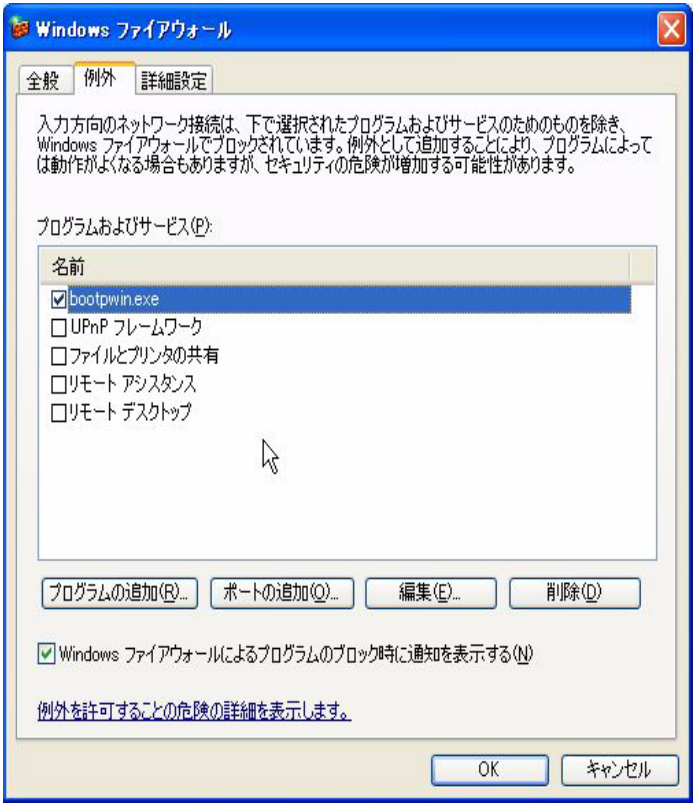

図 17　「Windows ファイアウォール」ダイアログの 「例外」タブ

その他の変更操作 (Administrator のユーザーアカウントで実行)

ChemStation のインストール (Administrator のユーザーアカウントでインストール)

ChemStation ソフトウェアを C:\Chem32 にインストールします (Administrator のユーザーアカウントでログオン)。システムを再起動します。

ChemStation をパワーユーザ / ユーザーとして実行するためのプロファイルとグループポリシー (Administrator のユーザーアカウントで設定)

ChemStation システムは、OS の Administrator ユーザーアカウントでインストールする必要があります。このマニュアルで説明したオプション設定でシステムを実行するには、すべてのユーザーとパワーユーザーが同じ設定を使用する必要があります。

説明した一部の設定は、Windows グループポリシーを使用したり、ユーザープロファイルをコピーすることで簡略化できます。これで、ユーザー / パワーユーザーのセットアップを簡略化できます。ただし、パフォーマンス設定などの変更は、Administrator ユーザーアカウントによるマニュアル設定のみによります。

PC のファイルシステムのメンテナンス

ChemStation システムのパフォーマンスを最適化するには、不必要なファイルの削除など定期的なメンテナンスを予定に組み込むことが重要です。定期メンテナンスのスケジュールの一部として、以下の手順を行ってください。

備考

この作業を行うには、Administrator 権限が必要です。

NTFS ボリュームのスキャンと修復

1 デスクトップの **[マイコンピュータ]** をダブルクリックします。
2 C: ドライブを選択します。
3 「ファイル」＞「プロパティ」を選択します。
4 「ツール」タブで、「エラーチェック」セクションの 「チェックする」をクリックします。

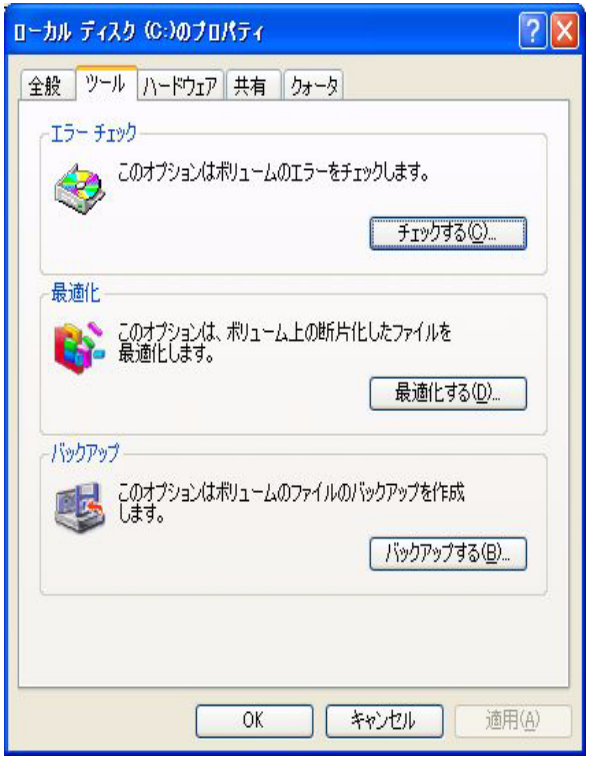

図 18　「ローカルディスクのプロパティ」ダイアログの 「ツール」タブ

5 チェックディスクのオプションである 「ファイルシステムエラーを自動的に修復する」と 「不良セクタをスキャンし、回復する」を両方ともオンにします。**[開始]** ボタンをクリックします。

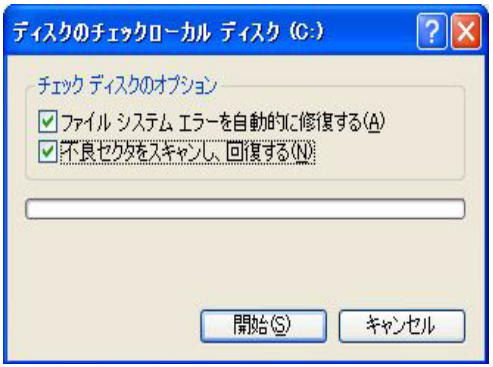

図 19　「ディスクのチェック ローカルディスク」ダイアログ

6 「ディスク検査のユーティリティは Windows ファイルの一部に排他アクセスが必要なため、ディスクの検査は実行できませんでした。これらのファイルは Windows の再起動後にのみアクセスできます。次回のコンピュータの再起動後に、このディスクの検査を実行しますか?」という警告メッセージが表示されます。**[はい]** をクリックします。

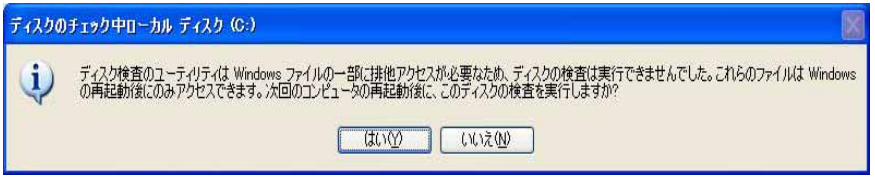

図 20　「ディスクのチェック」ローカルディスク」ダイアログ

7 コンピュータを再起動します。起動中に、ディスクのチェックが行われます。

コンピュータの残りのドライブに対して、上記の手順を繰り返します。

NTFS ボリュームのデフラグ

NTFS ボリューム上のファイルの断片化は、FAT ファイルシステムと比べると著しく軽減されています。NTFS ボリュームでは設計上、ドライブにあるファイルのサイズが増大した場合にのみ断片化が起こります。つまり、ボリュームをテープにバックアップして、テープからそのボリュームを復元すると、ボリュームは断片化されません。

Windows XP Professional では、デフラグユーティリティが付属しています。

Microsoft Windows のデフラグユーティリティを使用するには、以下の手順に従います。

1 [スタート] > [すべてのプログラム] > [アクセサリ] > [システムツール] > [ディスクデフラグ] を選択します。

2 分析するドライブ (C: など) を選択して、**[分析]** ボタンをクリックします。

図 21 「ディスクデフラグツール」ダイアログ

3 分析の結果によってドライブのデフラグが必要である場合には、**[最適化]** をクリックします。この時点でデフラグが必要でない場合には、**[閉じる]** をクリックします。

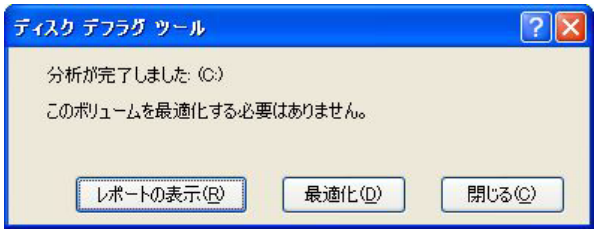

図 22　「ごみ箱のプロパティ」ダイアログ

4 システムの残りのドライブに対して、上記の手順を繰り返します。

注意　データ取込中には、ハードディスクのデフラグは行わないでください。

ウイルスのスキャン

Agilent ChemStation コンピュータが他のシステムとの通信でネットワーク接続されている (LAN、モデム、BBS など) 場合や、他のコンピュータのユーザーとファイルを共有している場合には、コンピュータウイルスのドライブスキャンを行うことをお勧めします。インターネットからプログラムをダウンロードしたり、電子メールやフレキシブルディスクで文書やプログラムの交換を行う場合には、ウイルスチェックのユーティリティが必須です。

ウイルススキャンには、数多くのユーティリティが存在します。またこうしたユーティリティは通常、新種のウイルスが発見されると定期的に更新されます。ウイルススキャンのユーティリティによるウイルススキャン時には、ハードディスクのパフォーマンスが低下することに注意してください。また、その他システム動作に影響する作用もあります。

Agilent ChemStation は、Symantec の Norton Antivirus との実行によるテストを受けています。週に 1 回以上は、ChemStation コンピュータのすべてのディスクをウイルススキャンすることをお勧めします。新種のウイルスへの対応として Symantec が提供する最新のウイルス定義を取得するために、必ず LiveUpdate を実行してください。

備考 データ取込中には、ウイルススキャンを行わないでください。ハードディスクのパフォーマンス低下と取り込まれたデータにより、ハードディスクへの書き込み速度が足りずに、機器のログブックに停電やバッファオーバーランのメッセージが発生し、さらにデータ損失の可能性もあるためです。

備考 Norton AntiVirus のバージョンが Norton Antivirus 2005 より古い場合には、Windows セキュリティセンターからの警告として、Norton AntiVirus はインストールされているがその実行状況を判別することができないことが通知されます。ウイルス対策のセキュリティ警告を無効にして Norton AntiVirus をユーザー自身で監視する方法については、Windows を参照してください。また、Windows セキュリティセンターに互換性を追加するための更新ファイルを取得する方法については、Symantec のサポートにお問い合わせください。

残存している一時ファイルのクリーンアップ

TEMP 環境変数が指定するディレクトリ内に、一時ファイルが蓄積する場合があります。こうした一時ファイルが残存するのは大抵、最初に Windows を閉じずにコンピュータの電源を切った場合などの Windows の異常終了時です。Windows の一時ファイルの名前は ~XXXXXXX.TMP です。XXXXXXX とは、一時ファイルを作成したプログラムによって生成される文字や数字です。一時ファイルの領域を確保するには、実行されているアプリケーションをすべて閉じてから一時ファイルを削除してください。

一時ファイルに使用されているディレクトリを知るには、コマンドプロンプトで SET と入力します。ユーザーやシステムの環境変数のすべてに関する現在の設定が返されます。

1 [スタート] > [すべてのプログラム] > [アクセサリ] > [システムツール] > [ディスククリーンアップ] を選択します。

2 クリーンアップするドライブ (C: など) を選択します。

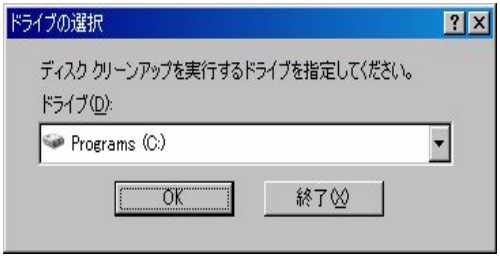

図 23 「ドライブの選択」ダイアログ

3 「一時ファイル」と 「Temporary Internet Files」を選択します。ユーザーの PC の用途や削除するファイルの種類について熟知していれば、他の種類のファイルを選択して削除してもかまいません。ディスククリーンアップユーティリティでは重要なファイルを削除してしまう可能性があるため、熟知していない種類のファイルは削除しないでください。ChemStation コンピュータでは、「古いファイルの圧縮」オプションをオンにしないでください。**[OK]** をクリックします。

図 24 「ディスククリーンアップ」ダイアログの 「ディスククリーンアップ」タブ

4 システムの残りのドライブに対して、上記の手順を繰り返します。

バックアップ

重要なデータを保護するには、適切なバックアップ方針を実行することが必須です。定期的にデータファイルをアーカイブ化することをお勧めします。オンライン使用する必要がなくなったデータファイルは、アーカイブ化してハードディスクから削除してください。これにより、コンピュータのハードディスクの空き領域が確保されます。ダイオードアレイ検出器や質量分析検出器から取り込まれたデータのサイズは、数メガバイトを簡単に超えてしまうことがあります。

Windows XP のバックアップ

Windows XP Professional には、標準タイプのデバイスを数多くサポートする互換性のあるバックアッププログラムが付属しています。バックアップユーティリティは、単一のファイルをバックアップしてオフライン媒体に記録する目的でも使用できます。どちらのバックアップユーティリティでも、データだけでなく Windows レジストリをバックアップすることもできます。

Windows XP のバックアップの自動化とスケジュール

Windows XP ではバッチファイルとスケジューラサービスを使用することによって、バックアップジョブを自動化したりスケジュール化することができます。Windows XP では、デフォルトでスケジューラを使用できます。

備考

データ取込中には、バックアップを行わないでください。ハードディスクのパフォーマンス低下と取り込まれたデータにより、ハードディスクへの書き込み速度が足りずに、機器のログブックに停電やバッファオーバーランのメッセージが発生し、さらにデータ損失の可能性もあるためです。

Travan テープドライブ

テープドライブは、現在最も多く使用されているバックアップデバイスです。IDE テープドライブは、最も低いハードウェアの初期コストと、使用に耐えうるパフォーマンスを兼ね備えています (最大 4 GB/hour)。Travan テープは、単一のワークステーション PC で Agilent ChemStation を実行しているラボのほとんどにおいて、最適なバックアップ手段です。テープあたりの最小の記憶容量は現在、非圧縮データで約 2.5 GB です。

使用ドライブをサポートする適切なバックアップユーティリティが必要です。

備考 MS-DOS ベースのテープバックアップユーティリティは、Windows から実行しないでください。テープ上のファイル情報が破壊されるおそれがあります。

デジタルオーディオテープ (DAT) ドライブ

デジタルオーディオテープ (DAT) ドライブは、一般的に記憶容量が 2 ～ 6 GB 以上であるため大容量のデータ処理に適していますが、PC に SCSI インタフェースが取り付けられている必要があります。

光磁気 (MO) ディスクドライブ

MO ディスクドライブは 1.3 GB 以上の外部 SCSI 接続の大容量デバイスで、接続には PC に SCSI インタフェースが取り付けられている必要があります。MO ディスクドライブは、*ライトワンス*メディアやリライタブルディスクに読み書きができます。

特定にバックアップソフトウェアは必要ありません。OS またはデバイスに付属しているサポートドライバによって、フロッピーディスクと同様に追加の MO ディスクにアクセスできます。

備考 リライタブルディスクは NTFS フォーマット時には、システムの起動中に取り外したり交換するなどの ホットスワップ」はできません。ディスクを交換するには、Windows をシャットダウンする必要があります。

レコーダブル CD-ROM

CD-R (CD レコーダブル) システムを使用すると、1 枚の CD-R ディスクに最大で 700/800 MB のデータを記録できます。CD リーダーや CD レコーダは多くの場合、PC の IDE インタフェースに接続されています。CD-R メディアは非常に寿命が長いため、アーカイブ化に最適です。CD-R ディスクは、CD-ROM ドライブと適切なソフトウェアがあれば他のコンピュータでも読み取り可能です。

注意 Agilent ChemStation でデータを取り込んでいる最中には、Windows ベースのバックアップユーティリティによるバックアップを行わないでください。バックアップメディアに格納されているファイル構造に矛盾が生じるおそれがあります。

ネットワークサーバー

ネットワークサーバーは、ネットワークシステムの管理者がサーバーのディスクに保存されているデータの適切なバックアップ方針を実行していれば、データのバックアップ目的に使用することもできます。方針の 1 つとしては、Agilent ChemStation 用にサーバーのディスク容量を割り当てます。このサーバーのバックアップ部分は、アクセスやコピー、評価など標準的なファイル操作を Windows 内でできるため**共有**と呼ばれます。

この方法での利点は、システムのアカウント (ログオン権限) を有するすべてのユーザーのバックアップをシステムの管理者が集中的に実行することです。

備考

3.5 インチのフロッピーディスクドライブの使用は、Agilent ChemStation でのバックアップ手段としては適切ではありません。

Part Number: **G2170-96128**

02/07
Printed in Germany

© Agilent Technologies, Inc. 2004, 2005-2007

Agilent Technologies
Hewlett-Packard-Strasse 8
76337 Waldbronn